

18 『唯信鈔』の思想

【全2回】／開催方法：対面併用

おか
岡

ひろし
宏



近畿大学生物理工学部
講師
中村元記念館
東洋思想文化研究所
研究員

受講料 会員料金：¥4,200 早割価格：¥3,200(納入期限：7月14日)

【日程・時間】【全2回】

7月18日(土) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

■受講に必要なもの

【テキスト】レジュメ配布

『唯信鈔』(1221年(承久3年)撰述)の著者・安居院法印聖覚は、隆寛律師とともに法然上人から篤い信任を得ていたと思われています。本書は、表題が示すように法然上人より相承する念仏往生の要諦に関し、簡潔明快に「ただ信心が専修念仏の肝要」という本願他力による念仏往生の真意を解説した書物と言われます。

この『唯信鈔』の特徴は大きく前・後2点に分けることができます。

前半は易行の強調、すなわち、阿弥陀仏の救いを信じ「南無阿弥陀仏」と称えるだけで救われるという浄土教の真髄を説き、後半は信心の重要性、すなわち、表題の通り、「ただ信じる=唯信」ことの重要性を説いています。

少し詳しく述べれば、前半では、仏道に聖道門と浄土門の二門を分ち、浄土門に諸行往生と念仏往生を挙げ、念仏往生について専修と雑修を示し、阿弥陀仏の本願を信じ、ただ念仏一行をつとめる三心具足の専修の意味を明らかにしています。つまり、専修念仏で信心を肝要とする阿弥陀仏の本願(第18願)は、自力を捨てて他力に帰することが肝要であるということを説かれています。

後半では、①臨終の念仏と尋常の念仏、②弥陀の願力と先世の罪業、③五逆と宿善、④一念と多念の4項目について当時の疑問・議論を挙げ、それぞれの課題について明快に、ただ信心を根本とする立場を示されています。このように本書は、浄土教の要点をまとめたものとして高く評価されています。

『唯信鈔』の所説の思想について、

- ①聖道門と浄土門
- ②諸行往生と念仏往生
- ③専修と雑修
- ④三心具足の専修の意味
- ⑤臨終念仏と尋常念仏
- ⑥弥陀願力と先世罪業
- ⑦五逆と宿善
- ⑧一念と多念

の8点に分って考えます。

お気軽に聴講ください。